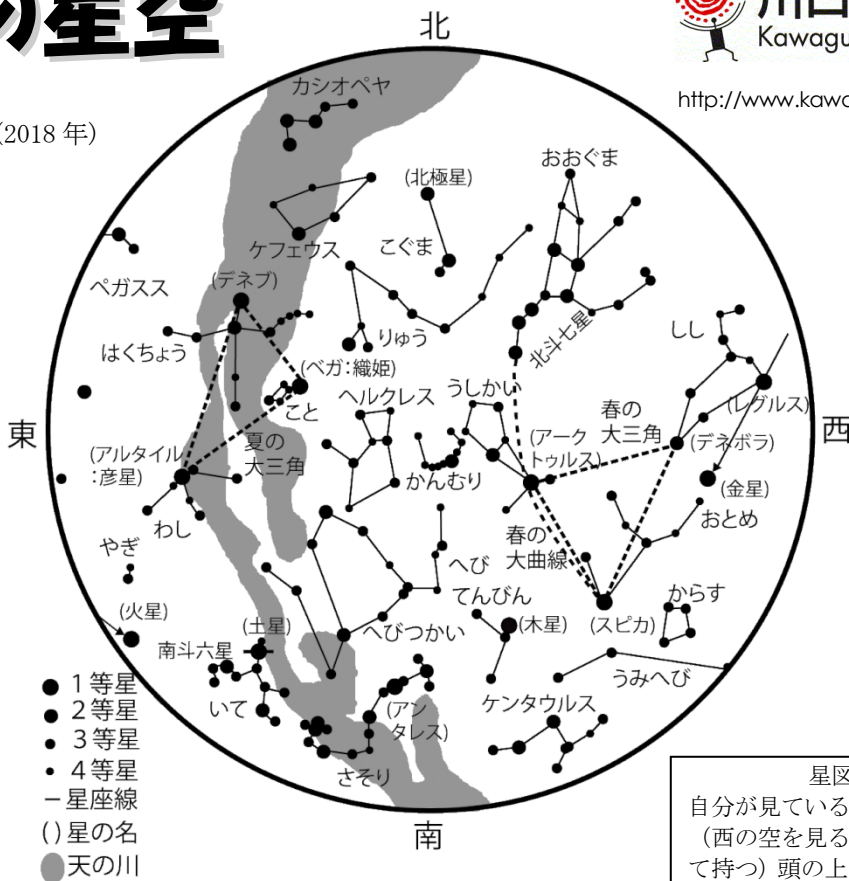


# 今月の星空

## 7月 (2018年)

上旬 21 時頃

下旬 20 時頃



星図の見方  
自分が見ている方向を下にして、  
(西の空を見るときは西を下にして持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ① 下弦 6 日、● 新月 13 日、● 上弦 20 日、○ 満月 28 日

惑星情報	金星	夜のはじめ頃	西	(しし座 -4 等級)
	火星	真夜中	南	(やぎ座 -2 → -3 等級)
	木星	夜のはじめ頃	南 → 南西	(てんびん座 -2 等級)
	土星	夜のはじめ頃	南東 → 南	(いて座 0 等級)

### ☆7月31日 火星最接近～15年ぶりの大接近～

7月31日、およそ2年2カ月ぶりに火星と地球が最接近します。最接近とは、右図のように、太陽の周囲を回る地球と火星が横並びになる瞬間のことです。地球と火星を走者、軌道を陸上競技のトラックのレーンに例えるとイメージしやすいです。第3レーンを走る地球が、第4レーンを走る火星を追い抜く瞬間が最接近です。地球が2年2カ月ほど(2周と少し)走る度に火星を周回遅れにします。

最接近と言っても、その距離は毎回同じではありません。それは地球に比べて火星の軌道が少しつぶれた楕円になっているためです。今回は、軌道が特に近い位置で最接近を迎えるため大接近となります。大接近は15～17年ごとに起こります。今回は2003年8月以来15年ぶりのこととなり、次回は2035年9月です。

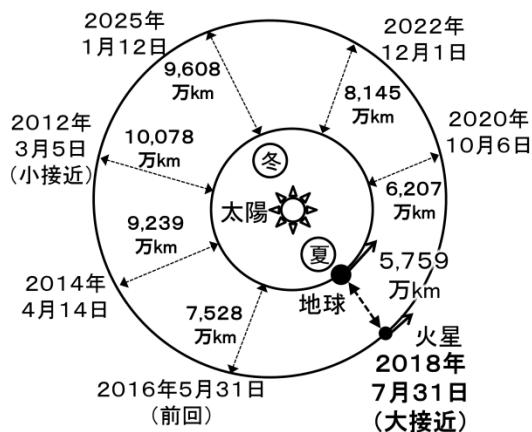


図 火星最接近日と地球との距離

### ☆火星表面の模様を観察するチャンス

まずは夜空で火星を見つけましょう。7月の夜のはじめ頃はまだ高度が低いため、夜遅い時間帯に見ると良いでしょう。7月初めから末にかけて、明るさは-2.2～-2.8等級になり、同時期に見えている木星よりも明るくなります。赤い色も特徴的で、夜空でひととき目立つ存在となります。

また、望遠鏡での観測もおすすめです。見かけの大きさが大きくなるため、普段は観測が難しい表面の模様や極冠が見やすくなります。ただし、その大きさは木星や土星(リングを含む)の6割程度しかないため、注意深く見る必要があります。科学館では7月28、29、31日に特別観測会を開催予定です。